



いわき市立桶売小学校「学校だより」

おけうり

平成30年3月9日(金) 第44号

＜教育目標＞

- ☆進んで学ぶ子ども(知)
- ☆健康でたくましい子ども(体)
- ☆みんなで助け合う子ども(徳)

発行者 校長 本名 武



感謝と寂しさと「6年生を送る会」

みんなから、いつも頼りにされる6年生。
 あんなふうにと、憧れをもたれる6年生。
 みんなが大好きな、ただ一人の最上級生。

そんな6年生への感謝の気持ちを込めて、2日(金)「6年生を送る会」を行いました。当日まで、5年生を中心に、各学年とも感謝の気持ちを「形」に表す取組を行ってきました。お花のアーチや紙吹雪、飾り付けや楽しいゲーム・歌の企画などもそうです。そのかいあってか、手作りの温もりのある素敵な会になりました。6年生も感動しているようでした。

うれしい春とさみしい春は、いつも背中合わせです。

中学校でも、何でも自分から進んで行おうとする姿勢、その明るさ・思いやりの心で、未来を切り拓いていくことを在校生・職員共々願っています。



あの日、世界が伝えた「日本の品格」

東日本大震災から7年になるのを前に、全校集会で犠牲となった方々へ黙とうをささげ、当時の日本人の姿とそのことを世界がどう伝えたかを振り返りました。「まだ物が散乱しているコンビニ。人々は落ちている食料品を拾い黙ってレジにならんでお金を払う。店側



も発電機で店内を照らし、レジを動かして黙々と対応している。・・・やがて、発電機の燃料がなくなり、店内が暗くなると、人々は持っている品物を棚に戻し、静かに店から出て行った。」

「何十kmの気の遠くなるほどの交通渋滞、永遠に続くかと思われた時間の中で、しかし、私は目的地に着くまでただの一度もクラクションを聞かなかったことに今驚いている。」：ワシントンポスト紙

外国では、災害につきものの「略奪やうばい合い」が見られないこと、怒鳴り声の代わりに口から出てくるのは「ありがとうございます」「すみません」の言葉。山のように買い占める者も便乗値上げする者もない、むしろ、値を下げている店があるほど。配給の行列に割り込む者はいない、そして配給後の広場にはごみ1つ落ちていない・・・外国の記者は、その姿を目にして涙が出たと言います。記者は「大震災で日本は全てを失った。しかし、何にも勝るものが日本には残っている。それは日本人そのもの」と書き、留学生は「日本に留学していたことは一生涯の誇りだ」と述べています。

最後の最後に残るのは国民性「人間性」なのだ子どもたちに話しました。困っている人がいたら手をさしのべる、思いやりの心をもって誠実に人に接する、人のいやがること・迷惑になることはしない、当たり前前を当たり前に行うことこそ、日本が世界に誇れる「日本の品格」。日本の、そして、世界の未来を担う子どもたちに、今しっかりと伝えたいことです。



防火教室「濃煙体験」



6日(火) 春季全国火災予防運動に合わせ、平消防署川前分遣所の方々に来校いただき、防火教室を開催しました。周囲がよく見えない煙の世界に身を置き、火災の怖さを体験するとともに、煙の中でパニックにならずに身を守る知恵や心構え等を学びました。



右下のホームページアドレス、QRコードをご利用ください。

＜日々の桶売小の子どもたちの活動・活躍の様子などを写真とともに掲載しています。＞



リアルタイム線量測定システムの数値(校庭)

0.092 μ Sv/h 3/9 11:40

(文部科学省HPの放射線モニタリング情報)

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

桶売小学校 電話0246-84-2230 Fax0246-84-2240

在籍児童数 男6名 女4名 計10名

※ 新しくなった桶売小HPアドレス

http://www.iwaki.gr.fks.ed.jp/?page_id=98

※ 新しくなった右記のQRコード

